KUMAMOTO KOUSEN

熊本高専だより

2014●Winter

NO.16

革新する技術、創造する未来～夢へ翔る熊本高専～

特集1 Special Topics 1
「デザコン2014 in やつしろ」

特集2 Special Topics 2
「ロボコン・プロコン&高専大会」

CONTENTS

01 巻頭のことば
02 後援会より
03 特集1 デザコン2014 in やつしろ
05 特集2 ロボコン・プロコン&高専大会
11 研修旅行&インターンシップ
15 学生会から
17 委員会より
19 センター等行事より
21 News & Topics

表紙:高専大会
ロボコン
電波祭、高専祭

熊本高専の新たな教育改善への取り組み
「教える」から「学ぶ」へ

八代キャンパス　副校長　齊藤　郁雄

本校では、平成23年度から「教育改善プロジェクト」なるものを立ち上げました。このプロジェクトは、本校の理念や育成する人材像に対する現状の分析を通して、教育上の課題を抽出し、その改善に向けたアクションを推進しようとするものです。

八代キャンパスのWG（座長：建築社会デザイン工学科岩部准教授）では、今年の夏に、アクションプランについての最終的な提言書を取り纏めました。ここでは、その内容を簡単にご紹介したいと思います。

提言書では、まず、本校教育の課題として、教育・学習活動が知識中心となっており、知識の応用・適用や具体的問題解決に向けた各種能力の育成が不十分であることや、英語教育、ＩＣＴ教育、国際化教育に対する教育体制の改善が必要であることが挙げられています。

ここで、「問題解決に必要な能力の育成」に関しては、ロボコンなど各方面での学生の活躍や企業・大学からの高い評価もあり、本校の一つの「売り」にしてきたところです。しかしながら、それを、現状の課題として掲げた背景には、近年の社会情勢や価値観の変化、学生の人間関係やキャリア開発に関わる環境の変化があります。一方で、高専教育には「創造的な技術者」という、社会からの高い期待が寄せられるようになってきました。そこで、本提言書では、高専が「売り」にしてきた部分にも、メスを入れて、さらなる「強み」にできるよう、改善していくこととしました。

下表はWGが提言した教育改善のためのアクションプランを抜粋したものです。このアクションプランは、表題にもあるように、「教える」から「学ぶ」への転換という観点を中心に据えています。学生の皆さんは、試験直前に知識を詰め込んで点数を取るのではなく、本質を理解して、それを応用できる力を磨く必要があります。また、様々な立場の人と連携・協調しながら、グループや組織の一員として問題解決に取り組んでいける人間関係能力や自己管理能力も身につけなければなりません。これらは、教えられて簡単に身につくものではなく、自ら「学ぶ」必要があります。

紙面の関係から、具体的な内容まで説明することはできませんが、下表のアクションプランは、そうした「学び」を促進するための教育制度や教育方法の改善を行うものです。今後は、教育改善アクションプラン推進委員会を立ち上げて、一つ一つのプランを具体化していく予定です。

豊かな人生を築いていくためには、自主的な「学び」を継続していける力が必要ですし、その力は学生のうちに身に付けるべきです。本プロジェクトを推進していく上で、一番大切なことは、学生、保護者、教職員が、同じ意識を持つことだと思います。学生の皆さんは、自ら「学ぶ」ことの大切さを理解し「学び方」を学んで下さい。教職員や保護者の皆さんは、学生の「学び」を促すよう、力を合わせて応援しましょう。

最後になりましたが、この提言書の取り纏めに至るまでには、多くの教員が膨大な資料・情報を収集・分析し、熱い議論を積み重ねてきました。関係した皆様に感謝申し上げますとともに、この「教育改善プロジェクト」が、熊本高専の今後の大いなる発展に繋がることを期待します。

八代キャンパス教育改善プロジェクトアクションプラン（WG 提言書より抜粋）

テーマ	プラン	アクション
A 自学自習の定着と促進	A1 e-Learningの活用促進	コーディネータ設置、コンテンツ整備 他
	A2 自学自習支援体制・設備整備	入退室管理システム導入、キャリアポートフォリオシステム導入、チュートリアル講座・サポート講座実施、初年度教育用教材開発、総合学習プログラム作成、マイスター制度（仮）導入、成績評価方法見直し 他
B 学習・教育目標達成に向けた効果的な教育手法および評価方法の導入	B1 アクティブラーニングの導入・実践	コーディネータ設置、プロジェクト科目開設、行事予定・時間割変更、ルーブリックによる評価手法導入　他
	B2 実務・実践を意識した学習活動の促進	客員教授制度等を利用した実務経験者の招聘、COOP 教育・インターンシップ促進　他
	B3 多様な教育手法および評価方法の開発・導入	新任教員へのメンター制度導入、見学会・報告会等を通した優れた教育手法の水平展開、ジェネリックスキル評価手法導入　他
C 育成すべき人材像と対応したカリキュラム整備および学内検討組織の設置	C1 ICT教育に関するカリキュラムの検討および整備	ICT 教育に関する検討組織設置、専門学科の卒業生に要求される内容・レベルの設定とそれに合わせたカリキュラム改定
	C2 英語教育に関する推進組織の整備および教育内容の検討	英語教育に関する推進組織設置、海外研修旅行の全学科実施、専門科目による英語力の向上、教員の英語力に対する評価制度導入
	C3 国際化教育に関するカリキュラム整備	各学科に国際化教育担当を設置、国際化教育に関するカリキュラムの検討（卒業時の能力設定、集中講義等開設）

後援会より

奨学後援会活動等について

熊本キャンパス　奨学後援会副会長　福住　利江

保護者の皆様に置かれましては、日頃より奨学後援会に格別のご理解とご協力を頂き、誠に有難うございます。

4月の定期総会にご承認いただきました行事計画に基づき順調に活動を執り行われております。

定期総会後の活動としましては、5月に役員会を開催するとともに、7月には八代キャンパス後援会の皆様との懇談会を行い、卒業パーティーについて意見交換を行いました。その席で、八代キャンパス後援会活動の工場見学のお話を伺い、10月に会長、副会長3名で参加させていただきました。その中で、企業に就職した際の高専生の仕事内容など、直接企業の方からお話を聞ける事が出来とても参考になりました。また、保護者の方との情報交換の場にもなり、有意義な時間を過ごさせて頂きました。来年度は熊本キャンパスでも取り入れる方向で検討をしていきます。

9月には台風の影響で変更になったオープンキャンパスで、昨年に続き高専保護者の部屋を設け、中学生の保護者の方からの相談をうけました。相談件数は少なかったのですが、受験生を持つ保護者の方の質疑・相談の良きスペースとなりましたので、冬季のオープンキャンパスでも行う予定にしております。

10月には三役と先生方とのワーキングを行い、今後取り入れていく支援・助成について話し合いを行いました。また、11月は秋季役員会を開き今後の活動等の話し合いを行っております。

役員会議や様々な行事に参加する度に先生方から、高専生の部活動の輝かしい記録や学術面での様々な取組の報告を伺う機会があります。とても頼もしく、うれしく思います。

様々な面で活躍されている学生の方の皆さんに支援できるよう、今後も、保護者の皆様のご協力を頂きながら奨学後援会活動を行っていきたいと思います。

後援会の活動について

八代キャンパス　後援会　副会長　本田　豊子

保護者の皆様、平素から後援会に温かいご支援・ご協力を頂きありがとうございます。

今年度は熊本高専統合から5年となり、全学年3学科となった事を機会に、役員を各学科各学年より2名就任して頂くよう会則を変更いたしました。このため、役員の人数が約2倍に増え、とても活気のある活動ができる様になったと実感しています。

主な活動を紹介させて頂きます。

例年人気のある工場見学研修は、県外に足を延ばしキューピー㈱と久光製薬㈱の工場を見学しました。53名の方々に参加して頂き、アウトレットモールにも立寄るおまけ付でとても楽しい研修旅行でした。

翌日には台風の影響で秋に延期になったオープンキャンパスに参加しました。相談室を設け、寮・進路・保護者等の相談内容に応じて対応者を先生方・学生と分担しました。遠方から来校される方が多い時間帯には満席になるほどの盛況振りで、来室者に当校の良さを充分伝える事が出来たと思っています。

高専祭では昨年同様のフリーマーケット等に加え、役員が講師を務めるＡＥＤ講習会を行いました。最近よく目にするＡＥＤ装置ですが、使い方を習う機会は少ないので皆さん興味深く熱心に参加されていました。

3月の熊本高専新設学科一期生の卒業・修了式は、熊本・八代キャンパス合同の式典が熊本県立劇場で挙行予定です。その後八代キャンパスにバスで移動し、祝賀壮行会を行います。滞りなく有意義な壮行会が行えるように準備を進めています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

これからも役員一同頑張っていきますので、後援会活動へご協力をよろしくお願いいたします。

【後援会の主な行事】

4月　入学式・総会
6月　学生会との懇談会
7月　熊本キャンパス奨学後援会との懇談会
10月　後援会会員の工場見学研修と親睦会
10月　オープンキャンパスへ参加
11月　高専祭参加　後援会ブース
3月　卒業・修了式及び祝賀壮行会

特集1

「デザコン2014 in やつしろ」

「デザコン2014 in やつしろ~よりそう~」開催される

開催地委員会　実施統括責任者　岩坪　要

11月8日（土）～9日（日）に「デザコン2014 in やつしろ」が八代市総合体育館で開催されました。「何？デザコン？」「ロボコンとは違うの？」などの声が聞こえてきそうなので、少しデザコンについて説明しましょう。

『デザコン』とは「全国高等専門学校デザインコンペティション」の略称で、「ロボコン、プロコンに続く第3のコンペ」として位置づけられています。最初は建築・土木系学科が主となるアイデアコンテストとして始まりましたが、昨年度から3Dプリンタを使った「3次元デジタル設計造形コンテスト」も同時開催され、機械系の学生も参加出来るようになり、よりエンジニアリング・デザインを追求するコンペとして盛り上がって来ています。そんな中、九州地区の開催が回ってきて本校が主管校となったのですから、大変です。

今大会では議論した結果「よりそう」というメインテーマに決定しました。東日本大震災では、自然の驚異を改めて提示されると同時に、今まで普通と思っていたことの中に大事なことがある点に気づかされました。無いと困る水と電気、自然と人との繋がりなど、人は常に何かによりそって生きていることに気付かされました。この気付きは「自然・地域・人・モノ」を扱う建築・土木・ものづくりのあり方を問われることになりました。しかしそこに未来に繋がるヒントが隠されており、これからの社会を担っていく若い人（高専生）の考え（アイデア）を聞いてみたい、との思いから「よりそう」というメインテーマにしました。次に大会で開催された4部門の競技部門について説明しましょう。

空間デザイン部門では「地域でつくる、人とつくる」をテーマにして、地域と人と共につくる空間デザインのアイデアを募集しました。今回のテーマの特徴として、学生が地域に出向き、地域の問題点を発見し、地域と共同でその問題点を解決する方法を求めました。難しい課題でしたが、予選には84作品の応募が有り、15作品が本選に出場しました。

環境デザイン部門では、「水と生きる、水が生きる」をテーマにアイデアを募集しました。生態系に欠かせない水について、漠然と水との共生・共存のあり方を尋ねてみました。建築、土木、機械、生物、どんなアプローチでもOKとした結果、予選には92作品の応募があり、その中から11作品が本選に出場しました。

構造デザイン部門は、これらの2つの部門とは違い、各校から最大2チームのエントリーが可能としている競技中心の部門です。テーマは「エネルギータワーコンテスト」として、木材で風力発電のためのタワーを製作して貰いました。これまでの強度追求型のコンテストではなく、今回は様々な性能を要求しました。現地で速やかに組み立てる性能、風が吹いても倒れない性能、地震が来ても倒れない性能、それに加え、制作者の思いです。例年よりも設計仕様が複雑になりましたが60作品のエントリーがありました。

3次元デジタル設計造形部門では、風によりそう飛行機を3Dプリンタで造形する「フライング・プレーン」がテーマでした。グライダーのように風によりそいながら滑空する小さな飛行機を設計しますが、そこには緻密な計算が要求されます。授業で、そして自分で学習した成果を形にしたプレーンが35作品集まりました。

いずれの部門も傑作揃いで、予選から数えるとのべ879名の学生が関係した大会となり盛況の中で閉会しました。お手伝いして頂いたスタッフ、プロの視点で盛り上げてくれた審査員の皆様、そして参加した全国の高専生に感謝申し上げます。未来は君たちに任せたぞ！

特集1 Special Topics 1 デザコン2014 in やつしろ

競技・運営で参加した学生の声

構造デザイン部門(運営)

建築社会デザイン工学科4年
原田　導護

構造部門の課題はタワーの制作で、架設競技、耐風審査、耐震審査、審査員審査が行われました。最初の架設競技は、タワーを組み立てる時間を競うものです。設計条件は例年になく厳しいものでしたが、折りたたみ式や引き伸ばし式など工夫を凝らしたものもありました。耐風審査ではタワー上端に風力発電装置を取り付け、別におもりを載せた状態で風車が回ることを確認し、耐震審査でタワーを揺らして揺れた量を計測しました。数ヶ月にわたり作りあげたタワーが、揺れに耐える様子を緊張しながら見つめる競技者が印象的でした。審査員審査では3分間のプレゼンの後、審査員の方々の質問に対し、適切な回答をしていました。

3次元デジタル設計 造形コンテスト

機械知能システム工学科4年
成松　照巨

今回は台車、プレーン（飛行機）を製作し、その飛距離と滞空時間を競う競技でした。初めは何から手を付ければよいのか全く分からない状態でしたが、メンバーと話し合いを重ねることでチームとしての発想・アイデアが生まれ、それが形を成し、空を飛び、競技ができるほどになりました。無から想像して創造する、エンジニアとして持つべき力をこの大会を通じて学ぶことが出来ました。また来年もこの達成感や感動を味わうためにCADコンに参加したいと思います。

空間デザイン部門　最優秀賞受賞！

作品「Orange Oche(オレンジ・マルシェ)」

建築社会デザイン工学科5年
丸田　悠理

11月8、9日のデザコン本選に、事前の予選審査を通過して出場しました。提出模型は、一目で何がしたいのかが分かるように工夫し、満足いくものが出来たので、会場でも一目置かれるものとなっていました。

一日目のポスターセッションでは、手応えを感じる事が出来ず、少し焦ったのですが、審査員の方々が何を聞きたいのかが明確になったので、二日目に向けて徹夜で準備をし、挑みました。二日目のプレゼンでは、自分たちが主に伝えたい事を厳選し発表しました。審査員の方々からは、これといった質問をされず、逆にそれが不安になっていましたが、公開審査の際に、私達の作品に票が多く入り、高評価を頂けていたのだと分かりました。しかし、最優秀賞を頂けるとは夢にも思わず、最優秀賞と決まった時は、ただ呆然としていました。公開審査が終わり、友人や先生方からお祝いの言葉を頂き、じわじわと実感しました。デザコンを通して学ぶ事は多くあり、後輩達には積極的に参加して貰いたいなと思います。

環境デザイン部門　優秀賞受賞！

作品「はねやすめ～親水を促す「川の駅」～」

生産システム工学専攻1年
溝口　稔也

デザコンてなんだろう？私は普段土木を専攻しており、参加を決めた時率直にそう思いました。始めのほうは何をしていいかもわからず、まずはひたすら今年のデザコンのテーマである「よりそう」を仲間や先生方と考えました。その中で私たちは土木建築混合チームということもあり、土木と建築両方の考えを取り入れ、土木と建築がよりそった作品を目指そうということになりました。そこで私たちは、加藤正方が堤防の浸食を防ぐためにつくった「はね」という土木構造物に目を向けました。そのはねを保存・復原し、はねの上で様々なアクティビティを行えるようにし、水、歴史、生物、人とよりそう空間のある作品を作りました。その結果予選を突破し、本選では環境デザイン部門の優秀賞をいただきました。結果から言うと最優秀賞をとれず悔しい思いをしましたが、精一杯やったので悔いはありません。このようにいい経験をさせていただいたのも、森山先生、磯田先生をはじめ、多くの方々のおかげです。この場をお借り致しましてお礼申し上げます。ありがとうございました。

環境デザイン部門　優秀賞受賞！

作品「水辺の暮らし」

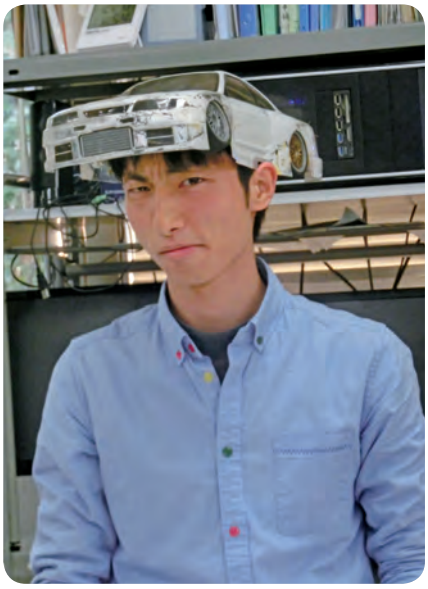
建築社会デザイン工学科3年
西田　みずき

前期から取り組んできた作品「水辺の暮らし」を初めてデザコンに出品し、私たちは環境部門に八代妙見町の暗渠になった水路や衰退しつつある伝統の紙漉を周りの自然環境・住環境と共にどのようにしてこれからの生活に生かしていくかという問題に取り組みました。現地調査をもとにグループ設計を行ったのですが今までの個人設計とは違いグループワークの楽しみ、対人関係や意見をまとめることの難しさを実感しました。また大勢の友達・先生方が手伝ってくださり感謝の気持ちでいっぱいです。本選では全国の高専生のプレゼンを聞き作品を見て意見交換を行い高専八代という枠の中では決して味わう事が出来ないものを体験し吸収する事が出来たのでこれからの活動に是非生かしていきたいです。結果は優秀賞ととても素晴らしい賞をいただく事ができましたがここで満足するのではなく来年に繋げていこうと思います。今回のデザコンはすべてにおいて「初」だったので沢山の刺激をもらえたデザコンでした！

特集2「ロボコン・プロコン&高専大会」

ロボコン地区大会に参加して

機械知能システム工学科5年　水永　悠介



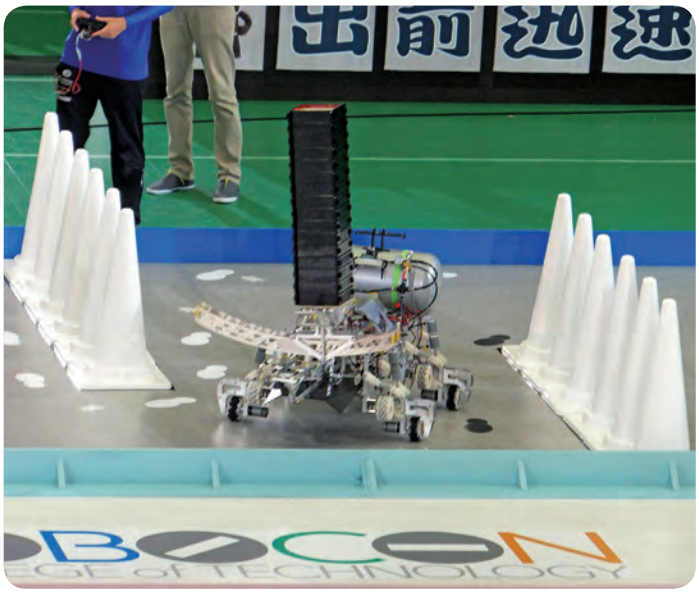
「来年はちゃんとやろう。俺は悔しい。」昨年の地区大会終了後、部員を前にして私は涙ながらに言いました。地区大会一回戦敗退、この結果が許せなかったのです。早速オフシーズンからチーム全体の技術力向上を狙って歩行ロボットの開発を進めました。このロボットの開発には達成困難な目標をあえて立てていました。毎年大きく競技課題が変わる高専ロボコンでは歩行機構等の技術の蓄積以上に、メンバーの技術力こそが大切だと私は考えていたからです。

迎えた今年のルール発表、前年までとは異なり歩行ロボットによる競技ではありませんでした。「しめた!」。蓄積なしのゼロからの挑戦こそ技術力が物言うからです。今のチームにはその技術力があると確信していました。そしてこの確信は的中します。トライ&エラーを繰り返し、ロボットを完成まで近づけることができたのです。技術力があるためトライ&エラーの周期が短くなり、多くのことを実験できロボットは強くなっていきます。地区大会は前年の結果を払拭する優勝。少しホッとしました。

しかしホッとするのもつかの間、次は最終目標の全国初優勝がかかっています。今年の各高専のロボットのレベルは僅差、地区大会後の改良は必須です。毎日夜遅くまで活動し、徹夜だってしています。現在では練習するメンバーと、設計・改良するメンバーに分かれています。体育館で練習している裏でロボットハウスでは設計・部品加工を行うことで、無駄のない活動ができており、これもチームメンバー一人一人の技術力があるからこそできるのです。この冊子が出る頃には、もう大会は終わっていますが全国初優勝できると願っています。

最後に、いつも私のわがままに付き合ってくださった顧問の先生・工場の先生を始めとする多くの方々の応援・ご協力に厚くお礼申し上げると共に、今後ともロボコン部へご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。

かっこつけてごめんなさい。



ロボコンに参加して

情報通信エレクトロニクス工学科2年　山本　祐揮

都城市で行われたロボコン九州沖縄地区大会に参加しました。私は熊本キャンパスBチームリーダーとして設計、出前ロボットの操縦を担当しました。ロボットの駆動にはモーターを使わず、自分たちで開発した圧縮空気の圧力で動くエアエンジンを使って走行する機工で技術賞を狙い全国大会出場を目標にして製作に取り組みました。

2年生の自分がチームをまとめることへのプレッシャーを感じ、設計の経験も浅いため、不安でいっぱいでした。この不安を埋めてくれたのは、昨年熊本キャンパスを全国大会ベスト4に導いた中丸先輩の献身的な協力や要望に従って作業をしてくれたチームメンバーの優しさでした。また、毎日遅くまで部活に取り組んでいた同級生の濱田君の熱心さに刺激を受け、多くの人に感謝するとともに、支えられていることを実感しました。

大会では、ベストのパフォーマンスができず、悔しさが残りましたが、熊本キャンパスとしては久々のエキシビションマッチに出ることができ嬉しかったです。この経験を糧に強豪熊本高専を築き上げるべく日々奮闘していきます。

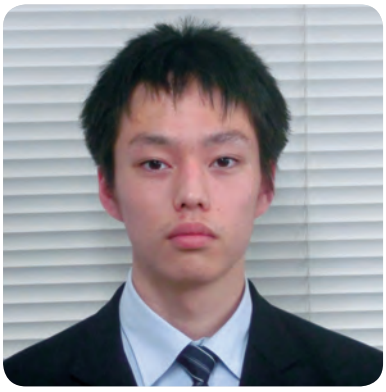
最後に、この度お世話になりました先生、技術センターなど職員の皆様を含め、協力していただいた全ての方々に感謝します。

特集2 Special Topics 2

ロボコン・プロコン&高専大会

ロボコンに参戦して

機械知能システム工学科2年　山川　慎嗣



私は10月19日にBチームの出前ロボットの操縦者として高専ロボコンに出場しました。今年のロボコンは「出前迅速」という競技課題です。出前ロボットがお盆に積み上げられた蕎麦の蒸籠を障害物を乗り越えて運びます。競技時間の3分間で少しでも多くの蒸籠を出前したチームの勝利です。私の所属するBチームでは「魅せるロボット」をモットーに浦島太郎の亀と乙姫をモチーフにロボットを作りました。合体機構やかわいい外装など他のロボットには無い特徴を持っています。

結果だけを言うと初戦敗退という苦い結果になりました。それでも、去年よりも進化できたと思います。去年は動かすのが精一杯だったのに対して試合の難易度は違っても、今年は試合を一通りおこなえて、なおかつ運んだことのない枚数を本番で運ぼうと、挑戦することが出来たのは大きな進化だと思います。

私は今年、初めて選手として参加しました。去年はピットクルーにもなれなかったので、今年、参戦できたことは自分にとってのロボコンを再認識するよい機会になりました。今までは観るだけだったロボコンが近く感じられました。

来年は3年生になりチームの中でも中心的な存在になると思います。来年はもっといい結果を残せるロボットを作って観客のみなさんをさらに「魅せる」ことが出来るように頑張りたいです。

高専プロコンの出場について

人間情報システム工学科3年　上野　裕一郎

毎年,"全国高等専門学校プログラミングコンテスト"というものが開かれています。高専ロボコンをNHKでご覧になられた方もいらっしゃると思いますが、それのプログラミング(コンピュータのプログラムを作る)版に参加したと思っていただければ結構です。

今年は、HIの3年生3人と、アドバイザーとしてHIの5年生の方に協力してもらい、予選を通過したあと、10月18日、19日岩手県一関市の一関文化センターで開催された第25回全国プロコン競技部門の本選に出場しました。競技部門とは、一般的なプログラム、例えば表計算ソフトを作るのではなく、与えられた問題を解けるようなプログラムを作る部門です。今年の問題は、1枚の写真をパズル状に切り取り、ぐちゃぐちゃにされ、それを元の写真に復元し、戻すときにスライドパズルの要領で元に戻すものでした。詳しく知りたい方はプロコンのHP(www.procon.gr.jp)を見てください。そして、どの学校が一番正確に復元し、スライドパズルの移動手数を最小化できるか競い、私たちのチームは決勝戦に出場し、全国で12位という成績を収めました。

来年も参加するつもりで、来年良い結果を得られるよう、日々プログラムの学習に努めています。今後私の所属する電子計算機部では、熊本キャンパス内でプロコンを開催したいと思っています。詳しいことは後ほど掲示等を行いますが、興味のある方は私まで連絡を頂けると幸いです。あなたも私と一緒にプログラミングに取り組んでみてはいかがですか?

2度目のプロコンを経て

機械知能システム工学科3年　湯舟　武龍

私は2年生のときプロコンの予選を通ることができず悔しい思いをしました。今年はその悔しさを糧に予選に臨み、見事本選に出場することができました。その時の喜びたるや今でも鮮明に覚えています。

今年のプロコンは初めて訪れる岩手の一関!寒さに凍えるかと思いきや現地の人もびっくり!私は半そで半ズボンで過ごしました。八代キャンパスからは課題部門5名、自由部門5名、競技部門3名の計13名が参加しました。課題・自由・競技全部門の予選が通り大人数の参加となりました。

結果は、課題部門が敢闘賞、自由部門が特別賞を獲得しました。競技部門は残念ながら1回戦敗退となってしまいました。私は課題部門のチームリーダーとして出場しましたが、アプリ作りが満足できるレベルまで完成せず、チームの連携がうまくできなかったため、とても後悔しています。自由部門が上位の賞をとったことは同じ部活として誇りに思います。

プロコンが終わって私は部長に就任しました。プロコンの経験を生かし、部のマネジメントをしっかりできるように頑張ります。次回は長野での開催となりますので、再び半そで半ズボンで乗り込み、今度こそ最優秀賞をとりたいと思います!　応援よろしくお願いします。

全国高専弓道大会に出場して―正射必中―

人間情報システム工学科2年　福田　あみ

7月に大分で行われた九州沖縄地区高専弓道大会で熊本キャンパス弓道部は、男子団体優勝、女子団体優勝、男子個人三位、五位、女子個人優勝、準優勝、五位という結果を残すことができました。

その後の8月、熊本を会場に開催された第一回全国高専弓道大会で、女子団体三位、女子個人で優勝することができました。全国大会への出場とあって、大会当日は不安や緊張をとても感じました。しかし、緊張感を感じながらも、本番はいつも通りに弓を引くことができました。

弓道では、「正射必中」という言葉があります。文字通り「正しい射であれば必ず的にあたる」という意味です。しかしそれは、「心技一体」の上で成り立つもので、精神面によっても大きく影響されます。弓道はとてもシンプルですが、シンプルだからこそ奥深く、難しいものです。全国大会では「正射必中」という言葉通りの射ができたのではないかと思います。

このような結果を残すことができたのは、指導していただいた顧問の先生方や先輩方、家族や応援していただいた方々のおかげです。ありがとうございました。

今後は私たちが後輩を引っ張っていき、来年も再び全国大会に出場して、良い結果が出せるように日々努力していきます！

福田さん（女子個人優勝）

女子団体（三位）

全国大会に出場して（テニス競技）

情報通信エレクトロニクス工学科1年　松本　祥暉

私は今年7月の九州沖縄地区高専体育大会テニス競技で優勝し、8月の全国大会への出場権を手に入れることができました。このような大きな規模の、先のある大会で優勝できたことは今までなかったのでとても嬉しく、また香川で行われるため三泊四日で行くという全国大会にとても緊張し、でも楽しみにもなりました。目前に迫っている全国大会は各地区で勝ち上がってきた強豪選手が集まるので、少しでも応戦できるようにそれまでよりもより真剣に練習に取り組みました。しかし、試合は一回戦で負けてしまいました。全国大会は出場選手の大半が遠方から来ていることもあり九州大会とはまた違った緊張感が漂っていました。その雰囲気に呑まれてしまい自分のしたいテニスができないまま初めての全国大会は終わってしまいました。とても悔しかったです。

私は今回、精神力も技術ももっと向上しなければと改めて実感しました。この経験を活かし、これからは雰囲気に呑まれない精神力、どんな状況でも自分のテニスができる技術を身につけられるようにしたいと思います。来年も九州大会、そして全国大会があります。それに向けてこれからの約半年間、部活動に一生懸命取り組んでいきたいと思います。そして今年より良い結果を残したいです。全国大会は、私にとってとても良い経験になりました。

全国大会に出場して

情報通信エレクトロニクス工学科4年　緒方　洋

私たち熊本高専剣道部は、香川県で開催された全国高専大会剣道競技に九州地区代表として出場した。団体戦で三位、個人戦で小峯遼太郎（TE3）が三位という結果だった。

私は試合結果に満足している。しかし、九州沖縄地区大会で優勝した時も、全国大会で三位入賞した時も込み上げてくる喜びはなかった。そして、何とも言えない脱力感を感じていた。ほとんどの部員にとって今回の勝利は思いがけず舞い込んできたものだったことだろう。

それは、部員全員で戦うことができていなかったからだと思う。チームのあるべき姿ではなかったと思うのだ。地区大会前の練習や全国大会のための合宿でさえ、人数がそろわず思うような練習ができなかった。部員全員が1つの目標に向かうことができていなかったのだ。私たち高専生は、日々レポートや課題に追われている。上級生になるにつれて難易度も上がり、量も増える。そのため、部活をする時間はあまりない。しかし、良い思い出を作る絶好の機会である高専大会が毎年開催されるのだから、それを目標にし、ベストを尽くすべきだと思う。それぞれの限られた時間の中でチーム全員が目標に向かうことができれば、より充実した高専生活を送ることができると思う。

来年は、熊本で全国高専大会が開催される。来年こそは、部員全員で価値ある全国優勝をつかみ取りたい。

特集2 Special Topics 2 ロボコン・プロコン&高専大会

全国大会に出場して

生物科学システム工学科4年　上野　怜奈

八代キャンパスバドミントン部は、九州高専大会の女子団体で準優勝し、8月に愛媛県で行われた全国高専大会に出場してきました。

今まで、八代キャンパスは毎年全国大会に出場していましたが、去年と一昨年は九州大会で負けてしまい、全国大会に出場することができませんでした。今まであったシード権も無くなってしまい、卒業生の方々に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。今年こそはと臨んだ九州大会でやっと全国大会出場を決めることができました。

全国大会では、精一杯練習して試合に臨みましたが、あと一歩のところで負けてしまい1回戦敗退でした。かなり悔しい思いをしましたが、良い経験ができたのではないかと思います。今年の全国大会で入賞した北九州高専や久留米高専とは、九州大会で試合をするので、来年も全国大会に出場するために、日々の練習を頑張っていきたいと思います。

部活では、全国大会に出場する選手優先で練習させてもらいました。協力してくれた部員のみんなや、お忙しい中、予定を調整して指導してくださった先生方やコーチに感謝しています。また、他の部活にも、体育館を変わってもらうなど様々な協力をして頂きました。本当にありがとうございました。今年は良い報告ができませんでしたが、来年はできるように頑張るので、これからもよろしくお願いします。

全国高専大会を終えて

機械知能システム工学科5年　野田　健翔

私たち高専八代サッカー部は、7月に行われた九州高専大会で準優勝し、2年連続の全国高専大会出場を決めました。九州大会では鹿児島高専に勝って優勝することを目標にやってきましたが、決勝で敗れ準優勝となりました。

全国大会は愛媛県の新居浜市と西条市で行われました。昨年のベスト8を越え、九州大会で負けた鹿児島高専にリベンジしようとやってきました。1回戦は高知高専に勝ちましたが、2回戦で松江高専に敗れました。チームの力の差はないながらも点を決めきれず負けてしまいました。私自身の決定力不足も痛感させられ、とてもくやしい結果になりました。しかし、これからの私のためになるとてもいい経験になりました。後輩たちもこの経験を生かして、来年の全国大会で活躍してほしいと思います。

今までご指導くださった先生方を始め、応援してくださった保護者や教職員の皆様、サポートを頂いたOBの方々、今までついてきてくれたチームのみんな、そして、このようないい経験をさせてくれたサッカーに感謝しています。ありがとうございました。

全国大会に出場して

建築社会デザイン工学科3年　高澤　花奈恵

愛媛で行われた全国大会に出場してきました。まず、予選リーグがありそこで負けてしまったので勝ち上がることができませんでした。全国大会のレベルは高いということを改めて実感しました。また、自分が練習不足であるということを実感し、多くの課題を見つけることができましたので全国大会に出場してよかったと思います。全国の高専生と知り合えてとてもよい経験になりました。

ここで話は変わりますが、私は今年の九州大会で目標だった優勝をすることができました。私は毎年準優勝で今年こそは優勝したいと思っていました。そのために練習をするときに心がけたことがあります。それは「相手の気持ちを考えて卓球をする」ということです。このことは私が1年生のときから指導をしていただいていた先生に高専大会前に教わったことです。これを機にまた違う卓球を見つけることができ今まで苦だった試合も楽しいと思えるようになりました。

最後に私の来年の目標は卓球部みんなで全国大会に行くことです。私は卓球部が好きだし、人数が多い方がきっと楽しいからです。この目標を達成できるように練習をしていきます。これからも応援よろしくお願いします。

九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会等結果一覧（八代キャンパス）

第51回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

競技名	種目名	選手名	順位
陸　上	男子 1500 m走	岩崎　大悟	優勝
	男子 5000 m走	岩崎　大悟	優勝
	男子走り高跳び	奥谷　龍生	2 位
卓　球	女子シングルス	高澤花奈恵	優勝
		山口あかり	2 位
	女子ダブルス	高澤花奈恵	3 位
		山口あかり	
	女子団体	高澤花奈恵	優勝
		山口あかり	
		清家　宏海	
		森崎　礼瀬	
水　泳	総合		優勝
	男子 200 mバタフライ	田中　純貴	優勝
	男子 200 m背泳ぎ	伊津野省吾	優勝
	女子 100 m平泳ぎ	久保田ゆりか	優勝
	女子 100 m自由形	久保田ゆりか	優勝
	女子 200 mリレー	小山　季彩	優勝
		森元　千裕	
		上田　真実	
		久保田ゆりか	
	女子 50 mバタフライ	上田　真実	2 位
	男子 200 m個人メドレー	田中　純貴	2 位
	女子 50 m背泳ぎ	上田　真実	2 位
	男子 100 m背泳ぎ	花田　優樹	2 位
	男子 400 mリレー	坂本　勇太	3 位
		花田　優樹	
		伊津野省吾	
		田中　純貴	
	男子 400 mメドレーリレー	花田　優樹	3 位
		渡辺　直人	
		田中　純貴	
		伊津野省吾	
	男子 200 m平泳ぎ	渡辺　賢人	3 位
	男子 100 m背泳ぎ	伊津野省吾	3 位
	男子 100 m自由形	丸永　慎也	3 位
バトミントン	女子団体	上野　怜奈	2 位
		眞﨑悠里香	
		大堀　晃歩	
		坂田依央理	
		横山　瑞海	
		竹谷　咲紀	
		吉井　涼香	
サッカー		中神　宏崇	2 位
		岩本　孝信	
		山元　康成	
		内山　直哉	
		原田　　優	
		松本　　悠	
		山﨑　雅弥	
		平川光一郎	
		野田　健翔	
		永野　蓮太	
		小松　健吾	
		坂田　祐亮	
		林田　紳路	
		田口征汰郎	
		宮崎　　尽	
		上角　瞭介	
		後藤　祥平	
バレーボール	女子	坂井　芽以	3 位
		甲斐早也香	
		塘内　香絵	
		中村　菜月	
		切通　　香	
		別城小百合	
		尾方　碧衣	
		梅下　瑛茄	
		米村　祥世	
剣　道	女子個人	坂井　里歌	3 位
柔　道	男子 60kg 以下級	古崎　伴征	優勝
		園田　拓実	2 位
テニス	男子シングルス	桑原　将平	3 位

競技名	種目名	選手名	順位
バスケットボール	男子	竹下　晃嗣	3 位
		下田　裕太	
		山道　翔太	
		長谷川航己	
		寺本　真平	
		羽矢　大起	
		橋本　昇憲	
		後藤　大樹	
		浦川　諒大	
		岩崎明日翔	
		竹原　彰汰	
		花岡　那月	
		丸尾　直輝	
		平田　　凌	

第36回九州地区高専少林寺拳法大会

競技名	種目名	選手名	順位
少林寺拳法	単独演武 （段外者の部）	熊宮宗一郎	2 位
		岩下　将大	3 位
	単独演武　有段者 （弐段以上の部）	上土井祐太	2 位
	組演武 （段外者の部）	熊宮宗一郎	2 位
		浅尾雄一郎	
	団体演武 （段外者の部）	岩下　将大	最優秀 （1 位）
		浅尾雄一郎	
		木嶋龍之介	
		熊宮宗一郎	
		松岡宗志郎	
		松本菜々花	

第１回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

競技名	種目名	選手名	順位
弓　道	女子団体	鎌山あずさ	3 位
		野田　智美	
		柳森　虹保	
	男子個人	西田　尚人	2 位

第49回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	選手名	順位
陸　上	男子 5000 m走	岩崎　大悟	2 位
水　泳	男子 200 mバタフライ	田中　純貴	8 位
	女子 100 m平泳ぎ	久保田ゆりか	6 位
	女子 100 m自由形	久保田ゆりか	5 位
	女子 200 mリレー	小山　季彩	8 位
		森元　千裕	
		上田　真実	
		久保田ゆりか	
	女子 50 mバタフライ	上田　真実	7 位

第25回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

競技名	種目名	選手名	順位
プログラミング	課題部門	木村　　匠	敢闘賞
		関原　至音	
		湯船　武龍	
		岩下　将大	
		本山　和輝	
	自由部門	岩本　　優	特別賞
		上田　尚人	
		渡邉　兼誠	
		西崎　友輔	
		松岡　雄太	

第20回西日本地区高等専門学校空手道大会

競技名	種目名	選手名	順位
空　手	女子個人組手	別城小百合	3 位

第１回全国高等専門学校弓道大会

競技名	種目名	選手名	順位
弓　道	男子個人	西田　尚人	2 位

全国高等専門学校デザインコンペティション2014in八代

競技名	作品名	順位
空間部門	Orange Oche	最優秀賞
環境部門	水辺の暮らし	優秀賞
	はねやすめ ～親水を促す「川の駅」～	優秀賞

高専ロボットコンテスト2014九州沖縄地区大会

ロボット名	順位
本気の宅配便（まじのたくはいびん）	優勝

高専ロボットコンテスト2014全国大会

ロボット名	順位
本気の宅配便（まじのたくはいびん）	優勝 ロボコン大賞 特別賞（東京エレクトロンFE株式会社）

九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会等結果一覧（熊本キャンパス）

第51回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

競技名	種目名	選手名	順位
バトミントン	男子団体	飯塚　雄基	3位
		倉野　晃志	
		茂藤　晃次	
		道家　光宏	
		首藤　拓也	
		久保　海斗	
		津崎　撤兵	
		西堀　颯人	
水泳	男子100mバタフライ	森田　聡太	2位
	男子200mバタフライ	森田　聡太	2位
	女子100m自由形	中釘　未鈴	2位
	女子50m背泳	中釘　未鈴	優勝
柔道	男子団体	中村　雅也	2位
		嶋田　稔也	
		平原　康裕	
		岡村　勇輝	
		田口　一精	
		工藤　直樹	
		中道　泰輔	
	男子個人73Kg以下	嶋田　稔也	優勝
		平原　康裕	3位
	男子個人90Kg以下	井上　真蕾	3位
剣道	男子団体	林　　祐作	優勝
		岩永　友也	
		緒方　　洋	
		武藤　晃輔	
		石原　海渡	
		小峯遼太郎	
		庄田啓一郎	
	男子個人	小峯遼太郎	2位
		緒方　　洋	3位
		石原　海渡	3位
硬式テニス	男子シングルス	松本　祥暉	優勝
バスケットボール	女子	藤崎　史恵	3位
		工藤　愛美	
		中神　楓子	
		梶原　まな	
		早田　有里	
		福原　優奈	
		竹下　紗織	
		今泉　　葵	
		松本　留依	
		面高　　雅	
		相馬　美優	
		坂口　梨子	

第49回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	選手名	順位
柔　道	男子個人73Kg以下	嶋田　稔也	3位
剣　道	男子団体	林　　祐作	3位
		岩永　友也	
		緒方　　洋	
		武藤　晃輔	
		石原　海渡	
		小峯遼太郎	
		庄田啓一郎	
	男子個人	小峯遼太郎	3位

第1回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

競技名	種目名	選手名	順位
弓　道	男子団体	村上　　翼	優勝
		井芹　健人	
		渡邉　朗久	
		松下　恒星	
		田中　陸生	
	男子個人	田中　陸生	3位
		渡邉　朗久	5位
	女子団体	後藤　千夏	優勝
		後藤　亜希	
		福田　あみ	
	女子個人	後藤　亜希	優勝
		福田　あみ	2位
		後藤　千夏	5位

第25回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

競技名	種目名	選手名	順位
プログラミング	自由部門	村上　雅貴	敢闘賞
		八木　智徳	
		田中　　享	
		山下　葉柄	
		中神　楓子	

第1回全国高等専門学校弓道大会

競技名	種目名	選手名	順位
弓　道	女子団体	後藤　千夏	3位
		後藤　亜希	
		福田　あみ	
	女子個人	福田　あみ	優勝

ロボットコンテスト2014九州沖縄地区大会

ロボット名	順位
山本蕎麦店（やまもとそばてん）	特別賞 （東京エレクトロンFE株式会社）

第61回NHK杯全国高校放送コンテスト熊本県大会

競技名	種目名	選手名	
放　送	創作ラジオ部門	上野　拓武	優勝
		宮本　崇平	
		仲摩　晴彦	
		齋藤　　愛	
		平原　康裕	
		坂本　奨馬	
		森上　智明	
		宮崎　稜也	
		荒木　駿介	
		藤原　彩愛	
		森下　優香	
		森　　貴礼	
		津崎　撤平	
		小椋　　駿	
		姫井　伶允	
		清水　　智	
		北岡　哲也	
		米山　晴香	
		宮崎　嘉敬	

研修旅行&インターンシップ

6日間のシンガポール海外研修を終えて

情報通信エレクトロニクス工学科4年　登田　晃浩

私は初めての海外ということでとても不安でした。もちろんその不安というのは自分の英語力が試されることからです。だけど実際は私が一生懸命に拙い英語で伝えようとしていることに対して現地の人々は真剣に耳を傾けてくれて気持ちを組みとってくれました。そんなおかげもあってテマセクの学生さんとの集団行動では海に行ったり、ゴーカートをしたりととても楽しいひと時を過ごすことができました。

企業見学ではダイキンという空調関係の会社に行き、今の大手企業に至るまでの歴史や部署ごとによる働きなどを紹介してもらいました。また、現地で働く日本人の実態などを聞いてとても大変そうだと思うと同時に英語の必要性や海外で働くことの素晴らしさを感じました。自分も海外で働きたいと思うような貴重なお話を聞くことができて、少しずつでも英語に触れていこうかなと思います。

この6日間は今までの人生にないくらい最高に楽しく、とても充実した日々でした！

研修旅行を終えて

制御情報システム工学科4年　宮川　直也

夏季休業中の9月20日から10月5日までの計16日間、シンガポールへ研修旅行に行きました。CI科の研修旅行は毎年、他学科より倍以上の期間滞在します。そのおかげで、私達は沢山のシンガポール人の友人をつくることができ、そして、数え切れないほどの貴重な経験をすることが出来ました。

交流したのは本校の提携校であるTemasek Polytechnic(TP)です。彼らは私達の旅が楽しいものになるように真摯に考えてくれていました。授業終了後にTPからホステルへの帰路はとても楽しく、買い物や食事のために歩きまわったり、新しい場所を訪れればすぐに写真の撮り合いになったり、いつも皆で笑っていました。しかし一番思い出深いのは、やはりホステル内です。次の日も逢えるのにも関わらず、夜の10時11時過ぎまでシンガポール人とずっと話しこんでいたあの時間は、本当にかけがえのないものでした。

今回の研修で一番痛感したのは、英語で話す喜びです。私たちは授業で英語を学びますが、日常生活でそれらは無くても困りません。しかし海外に行くと違います。生活するために使わなければなりません。自らが必死に考え口にした英語が現地の人に通じ、コミュニケーションが取れたとき、私はとても感動しました。私は、もっと英語を話せるように努めます。そして、彼らと再会した時にちゃんとお礼の気持ちを伝え、恩返しがしたいです。

研修旅行に参加して

人間情報システム工学科4年　坂本　叶夢

この研修旅行は私にとって初めての海外旅行でした。行く前は自分の発音で英語は通じるのか、現地の英語は聞き取れるのかなど不安でしたが、実際にシンガポールに行ってみると道を聞く時や食事の注文や買い物など自分から行動をしない限り英語を使う機会もあまりなく、買い物でも大体想定内の英語しか聞こえてこないので、少し安心していました。

しかし、テマセク・ポリテクニックに行って現地の学生と交流が始まるとそうはいかず、話したいことを英語にできず上手に意思を伝えることができなかったり、相手の英語が聞き取れないことが結構あったので英語を勉強することは大事なことなんだと痛感しました。けれど、上手に文章を作れなくても単語を並べるだけでも割と伝わることが分かり、精一杯分かる単語を並べることでなんとか会話することができました。交流の中で現地の学生が、シンガポールのいろんな観光スポットを案内してくれました。私の班はセントーサ島、リトルインディア、オーチャードなどを案内してもらいました。美味しい料理を紹介してくれたり、買いたい物を伝えると安く買えるお店に連れて行ってくれたりととても親切にしてもらいました。彼らのおかげでとても楽しい研修旅行になりました。

この研修旅行を振り返るともっと英語が話せれば後悔することも多かったので、シンガポールから帰った後少しずつ英単語を覚えるようにしています。日本では、英語で人と話す機会は滅多にないので貴重な体験ができたと思います。

研修旅行＆インターンシップ

シンガポール研修旅行に参加して

機械知能システム工学科４年　吉本　優

私たちは、海外研修旅行としてシンガポールに行きました。現地では明電シンガポール、牧野フライスを訪問しました。現地で働いておられる日本人の方のお話を聞いたり、様々な国の方々が同じ現場で働いている様子を見学することができ、海外で仕事をするうえで大変なこと、やりがいを知る良い機会となりました。また、シンガポールポリテクニックを訪問し、校内見学やワークショップを行いました。ワークショップでは現地の学生と英語や身振り手振りでコミュニケーションをとりながら和気藹々と取り組みました。お楽しみの自由行動ではマーライオンなどの観光名所を観て回ったり、お土産を買ったりととても充実していました。中でも、男5人で観たシンガポールの素晴らしい夜景は忘れません。街中を歩いたり、お店の人と話したりしながら現地でしか味わうことのできない雰囲気や文化に触れて、日本と海外の違いを肌で感じました。

今回の研修旅行を通して海外でしかできない経験をしたのはもちろんですが、なによりこのクラスのみんなとの絆がより深まったと感じています。私自身、高専生活の中での最高の思い出をつくることができ、とても満足しています。この研修旅行で得たものをこれからの学校生活に活かしてもっと有意義で充実した日々を過ごしていきたいと思います。

研修旅行に参加して

建築社会デザイン工学科４年　福留　愛

５日間の研修旅行では、石川・富山・長野・東京など普段脚を伸ばすことがないような場所に行き、多くの巨大構造物・著名建築作品に触れ、研究・技術開発を見学しました。一番心に残ったのは、富山と長野の県境にある立山黒部アルペンルートです。日本最高地点の駅である室堂駅（標高２４５０ｍ）では所々積雪のある３０００ｍ級の山々を望み、日本最大級の黒部ダムでは、長い階段を息を切らして登った展望台からダムを見下ろしたとき、日本の土木技術の素晴らしさに息を呑みました。また、現場や市役所・研究所内で私達に熱く語りかけてくださる職員の方々の目はとても輝いていました。多くの刺激を受けて、新たな目標・将来に繋がるヒントを見出すことができました。この旅行は旅行業者との打ち合わせからしおり作成に至るまで旅行企画委員の学生が中心となって作り上げました。ホテルでの夕食ではクラスメイト２人の誕生日をサプライズで祝い、改めてこのクラスで良かったと思いました。また、いつもはあまり話すことのない人ともたくさん話すことができ、クラスメイトとのたくさんの思い出ができた充実した旅行になりました。

このような機会を与えてくださった先生方と両親に感謝し、残り少なくなってきた学生生活をクラスメイトと共に勉学に励み、多くの思い出を残していきたいです。

研修旅行に参加して

生物化学システム工学科４年　寺本　真平

10月上旬に自分たち生物システム工学科は関西、関東と様々な場所へ５日間工場見学研修旅行に参加をしました。

今回の研修では、自分たちが普段何気なく使用している薬、洗剤や普段食べている食品の製造工程を見たりそこで働く方々の話を聞いたりしました。その中で一番強く感じられたのは衛生管理の体制についてしっかりしているということです。例えば、衛生帽子やマスクをつけるのはもちろん作業する部屋の床の色で衛生レベルを分かるようにして意識付けをしたり製品がなるべく空気中に出ないようにするため製品の部屋間の移動はチューブを使っていたりと様々な工夫がしてあり自分が普段口にしている製品は、安全であると確認をすることができました。

次に感じたのは、エコについてもよく考えているということです。会社で使用する電力の一部を風力や太陽光発電を使っていたり、なるべくごみが出ないように包装を改良したりビンを少し薄くしたりなどどこちらも様々な工夫がしてあり驚きました。

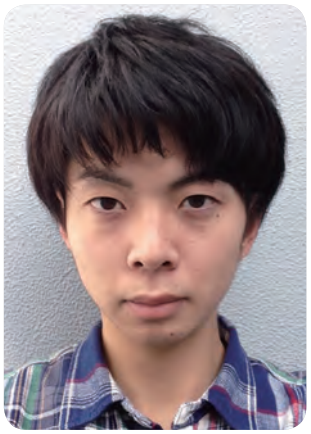
自分は、将来つきたい職業が食品系というおおまかにしか決まっていないため今回の研修では様々な企業の雰囲気などの研修旅行でしか知ることのできないようなことを知ることができとても有意義な時間を過ごす事ができました。

今回の研修で学んだことを今後の学校生活で活かしたいと思いました。

研修旅行&インターンシップ

インターンシップを終えて

情報通信エレクトロニクス工学科4年　松本　優朔



私はこの8月、熊本市にある株式会社熊本シティエフエムで5日間のインターンシップに参加しました。高専に入ってから通信関係の仕事に興味を持ち、どのような仕事が行われているのか実際に自分の目で見てみたいと思い、参加に至りました。今回のインターンシップでは、地域に密着したコミュニティ放送の番組制作から放送までの過程を見学させていただき、そこで用いられる通信技術を学びました。

私が始めに思ったことは、社員の方がとにかく明るいということです。コミュニティ放送は、視聴者となる地域の人があって成り立っているから、その人たちに元気を届けたい。そういった思いからいつも明るく、元気であることを心がけていると社員の方は話されていました。それを聞いて私は、社内の雰囲気は働く上でとても重要なのだと改めて思いました。番組制作を行う制作部、番組を放送する際、技術的なサポートをする技術部、広告やイベントから資本を集める営業部といった各部署が、一つのチームとなって会社を動かすにあたり、社内の雰囲気はとても大切となります。全員で雰囲気づくりを心がけることで、放送する番組の質を向上させているのだと思いました。

5日間の研修のうち、最も印象に残ったことは最終日の回線チェックです。熊本シティエフエム、FM熊本、RKK、NHKといった熊本市内の放送局が毎年協力して制作する、防災特番の回線に不備がないか、今年の制作本部があるRKK本社での回線のチェックに同行させていただきました。RKK本社にはさまざまな放送局の技術部の方が集まっていらして、自局にちゃんと放送が届くのか、回線のチェックを行われていました。このように、裏で支える技術者があって初めて番組が放送できているのだと思い、技術職の素晴らしさを実感することができました。

私はこの5日間のインターンシップを終えて、働くことの楽しさや大変さ、コミュニティ放送とそれを支える技術の役割を学ぶことができました。また、さまざまな人から話を聞けたことは、自分を見つめなおす良いきっかけとなりました。この貴重な経験を今後に活かしていきたいと思います。

インターンシップに参加して

生物化学システム工学科4年　前村　邑啓

私は山口県防府市にある協和発酵バイオ山口事業所で5日間のインターンシップに参加しました。初日は、工場と研究所の見学、会社説明をさせていただき、そのなかで工場のどの工程が不十分でも良い製品が成り立たないということを学びました。

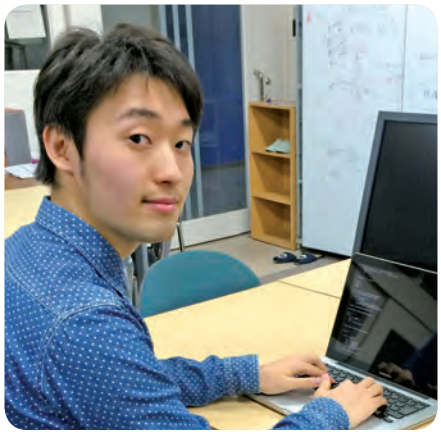
そして研究所での実習を行っていく中で、自分の中での研究者のイメージと実際のものとの違いに気づかされました。研究者というのは自分自身の行っている研究とだけ向き合って座りっぱなしでいるイメージを持っていましたが、全くの逆で他の人が何か迷っていたら手助けし、研究所内を歩き回り、工場に自分でデータを取りに行くということまで行っていました。私はそれを見て日頃言われているコミュニケーション力がいかに大切なのかを実感しました。

このインターンシップ中、研究所内の滅菌装置が使えなくなるという事故が発生し、研究所内のほとんどの方が作業を行えなくなるということが発生しました。しかし研究所内の方々は原因を探し発見し、それを互いに連絡しあい、変わりになにかやることを探し、上司と相談して別の作業を行っていました。世間でも言われている、「報告」・「連絡」・「相談」の大切さと自分で考えて行動するということを学ぶことができました。

私がこの5日間のインターンシップで大きく学べたことは、コミュニケーション力というものが何なのか、そしてその大切さでした。ただ初対面の人とお喋りができるのがコミュニケーション力ではなく、相手にわかりやすく簡潔に伝えるとか自分から積極的に意見を言えるようなことがコミュニケーション力なのではないかと思いました。私は今回のインターンシップで自分のその力の無さを感じまずは挨拶や返事から改善していこうと思いました。そして人と話すということにはその人と同等の知識が必要だということも学びました。私は今後の学校生活で勉学だけでなく、人との関わり合いも共に力を入れていきたいと思いました。

インターンシップを通して

電子情報システム工学専攻1年　渡辺　龍二



私はこの8月、テレビ熊本のインターンシップに参加しました。幼い頃からテレビが好きで、番組制作の現場を体感しそこで実際に仕事をしてみたいと思い、今回の参加に至りました。

私がお世話になったのは技術部でした。番組を制作し放送するための技術的な仕事をする部署です。私は特に音声に興味があったので、音声に関する業務を行う、いわゆる「音声さん」のお手伝いをすることになりました。

とは言っても、私に与えられた業務というのはこれといってありません。今回の実習では、この日はこれするというようなカリキュラムも、達成しないといけない課題もありませんでした。極端な言い方をすれば、いきなりただ現場に放り込まれた、という感じだったのです。実習始めたての頃は見学気分もありその状況に疑問を感じなかったのですが、それに気づいたときに、「これでは何も学べない！」と強く感じ、自ら意識的に行動を起こすようになりました。音声さんの業務を見て、それが何をしているのか質問し、自分にも体験させてもらえないかと頼んでみる。それをひたすら繰り返すうちに、音声さんのほうから「これやってみるか」と声をかけてくださったり、詳しい技術的な説明をしてくださったりする機会が増えてきました。実習の終盤になると、基本的な業務であれば一人でこなせるようになりました。

学校というのは非常に恵まれた環境だと思います。先生たちは教えることが仕事なので、私達に対して全力で教えてくださいます。しかし職場においては、そこで働いている人達は私に何か教える義務はありません。世話を焼く義務もありません。だからこそ、自分は学びたい、やる気があるという姿勢をアピールしないと、仕事をする上で必要なことは学べないし、信頼を得ることはできないのだと痛感しました。今回のインターンシップは、社会に出て働くとはどういうことなのか、身をもって知ることが出来た貴重な経験だったと思います。

会社を知る・仕事を知る

生産システム工学専攻1年　山崎　春菜

今回のインターンシップで株式会社エイアンドティーを志望した動機は、「会社を知る」、「仕事を知る」というテーマを実習の目的としている点に関心を持ったためです。私は、これまでに企業にインターンシップをしたことがなかったため、企業についての知識と認識がつかめずにいました。そのため、研修テーマの「会社を知る」「仕事を知る」を通じて、企業で働くことの実感と必要な技術について把握したいと考えました。また、研修先の会社が興味のある事業分野であり、開発から製造、販売までの一連の流れが行われていたため、現在学んでいる複合技術がどのように活かすことができるか知ることができればと考えました。

主な研修内容は、企業についての説明・見学や高専を卒業したOB・OGの方々のアドバイス、グループディスカッションなどです。エイアンドティーは、病院の臨床検査科で運用されている臨床試験試薬、検体検査装置、臨床検査情報システム、検体検査自動化システムの4つの分野の製品を取り扱っている会社です。それらの業務を詳しく説明していただく中で、研修前は、自分が働くことを想像して臨床試薬の開発または製造のような業務しか考えていませんでしたが、専門分野の異なる個別の仕事であると考えていた事業がすべてつながりをもっていることがわかったことで働く仕事の選択の幅が広がったように思います。また、先輩方のアドバイスでも、今まで働いていた部署とは分野のまったく異なる部署へ移動されている方の話も聞くことができました。やはり最初はまったく別の分野であったため、難しいこともあったようですが前の部署でプロセスの基礎を身に着けていたことで、違う分野でも臨機応変に仕事ができるということを教えていただきました。

今回のインターンシップでは、今まであいまいだった会社と仕事についての認識を明確にすることができ、さらに自分のこれからの進路についても深く考えることができる体験ができました。

電波祭を通して

電波祭実行委員長　栃原　かれん

第13回電波祭のメインテーマは「Action+(アクションプラス)」としました。英語で実行するという意味の「Action」。そして「+」には、電波祭で何かひと工夫プラスしながら実行していこう、その中で心に残ったものや得たものが自分達のこれからにプラスされるものになるよう活動していこうという意味を込めました。また、私の趣味が映画鑑賞なのでメインテーマのロゴをカチンコに「Action+」と書いたものにしました。分かりやすいテーマだったからか、今年はテーマに沿った活動をしているのがよく見受けられました。模擬店の衛生強化のAction、学科展示試みのAction、ステージイベント技術のクオリティアップのAction、フィールドイベントのフォトコンテストなど多くのActionを実行委員が起こしてくれました。また、私の映画趣味に沿って素敵なメインデザインやステージのバックボードを考えてくれました。

これまでの電波祭では部門長をしていたので執行部にはいましたが、他部門がどのような活動をしていたのか知る機会が少なかったです。実行委員長として他部門の活動を見て、どの部門も電波祭に欠かせないものということが身に染みて感じました。部門会やリハーサルにて、どの実行委員も一生懸命に細かい部分やこれまでの経験を基に各々意見や改善点を出し合い、後輩達をひっぱりながら活動している姿がありました。スタッフウェアのパーカーが完成してから、パーカーを着て奮闘する姿を見て、私も頑張らなくてはと元気をもらいました。多くの後輩達とも話すようになり、電波祭の活動は人との繋がりが広がるものだと改めて思いました。

しかし、実行委員に辛い思いをさせてしまったり、執行部のメンバーと衝突して口がきけなくなったり、思うように上手くいかなかったり、直前になってバタバタして多くの学生や先生方に迷惑をかけてしまったりと大変だったこと、辛かったことの方が多くありました。こういう時に人としてしなければならない事を考えながら執行部と協力して次の行動を起こしたりしました。

電波祭当日は、一時雨が心配されましたが、両日快晴で大盛況の電波祭となりました。予想外の来場者の数に駐車場が足りない、模擬店の販売中止売り切れ、備品不足などのハプニングがありましたが、学生、実行委員が適切な判断と行動をしたおかげで、大きな問題もなく、今までの中で最高の来場者数を記録し、電波祭を終える事が出来ました。電波祭がどんどん多くの人達に注目されてきているのだという嬉しい教訓を得た電波祭となりました。

これまで女子が実行委員長をしていたところを見た事がなかったし、例年よりはるかに多い200人もの実行委員の前に立つ事は人前で話すのが苦手な私には辛いものでした。ですが、この200名もの実行委員を引っ張ったのは部門長副部門長達です。例年より人数が多く活動しにくい面があったかと思いますが、最後まで部門員をまとめてくれました。また、自分から積極的に動いてくれる四役、とても頼りになりました。この執行部メンバー31名のおかげで最後まで実行委員長として電波祭をする事ができました。本当にありがとうございます。また、今年は多くの先生方にもご協力して頂きました。こちらの準備不足で多大なご迷惑をおかけしてしまい申し訳ありません。本当にありがとうございます。

今回の電波祭を通して、自分一人では何も出来ない事、周りにいる人達を信頼して任せる事の重要さを学びました。そして、この5年間の中で最高の電波祭となりました。実行委員からも今年が1番楽しかったと話が聞けて、とても嬉しかったです。これからの私にとって大きく「+」となった電波祭でした。この先、どんなに辛い事があっても、第13回電波祭を思い出して乗り越えていきたいと思います。感謝をしてもしきれないくらい良い経験、青春を過ごすことが出来ました。実行委員をはじめとする学生の皆さん、関係者方々、ありがとうございました。

来年の電波祭は来場者として足を運ぶのがとても楽しみです。後輩達、期待しています。

高専祭を終えて

高専祭実行委員長　上田　徹

こんにちは。高専祭にお越しくださったみなさん、今年の高専祭も楽しんで頂けたでしょうか。

今年の高専祭は「prima」というテーマを掲げ、春から準備をしてきました。このprimaというのはラテン語で始まりを意味し、prima donnaという主役を意味する言葉の語源ともなっています。今回が本科全学年が3学科となって最初の高専祭であることと、今年の高専祭は一人一人みんなが主役だよ。という気持ちを込めて「prima」というテーマにしました。今思えばテーマをラテン語にしたらかっこいいとか思って、モテようとしてたんでしょうね。

そんな感じでテーマが決まったのち、7月くらいにスポンサー回りをしたり実行委員の定例会をはじめたりと、着々と準備を進めていきました。これが意外としんどくて、前期だけで10回くらい実行委員長やめたいと思いました。でもやると決めたからにはやります。それが上田徹です。なので最後までがんばりました。

後期になってからはリハーサルを始めました。最初は企画の進行がうまくいかず、これはヤバいんじゃないかと思う日々を過ごしましたが、さすが高専生。本番が近くなるほどスムーズに進行できるようになっていきました。レポートと一緒ですね。期限ギリギリで見せる本気のすごさを改めて感じました。

とかやってるうちに前夜祭がやってきました。開会宣言が原田クンの裏声だったり、実行委員長が仮装してお菓子投げたり、最初からアホみたいでしたけど個人的にはすごく楽しかったです。文化的イベントでは、太鼓集団天邪鬼の方々に和太鼓公演をしていただきました。これが想像以上にカッコよかったし、太鼓体験コーナーも盛り上がってすごく楽しめたんじゃないかと思います。

夕方のお菓子投げでは小雨が降るなか、お菓子を求めて群がり叫ぶ人たちがたくさんいて、なんか平和だなって思いました。今年はいろんなモノが飛び交ってて楽しかったです。

そして本祭1日目。天気予報では降水確率が50％くらいとされており、雨が心配されていました。でもやっぱり高専祭はステージで開催したい。そのためにはみんなの気合で雲を晴らすしかない！と思って実行したチックサックコール。9割くらいの人はポカーン…でしたね。でもそんなの関係ねえ。叫んでくれた1割の学生の気合のおかげで雨がそんなに降らなかったと思います。

この日一番盛り上がったのは新企画のベストカップルコンテスト。お客さんも多く、決勝のラブレターを読む場面では、会場が感動的な空気に包まれました。この企画をきっかけに付き合った高専祭カップルもいるので来年も期待しましょう♡

そして本祭2日目。この日も降水確率が60％くらいでした。だから当然やりました。チックサックコール。1日目より空気がつらかったです。でもそんなの関係ねえ。2日目もチックサックコールのおかげで雨が降らなかったと思います。

2日目は高専祭の目玉企画！美男・美女コンテストが行われました。2日間通してお客さんが一番多く、美男コンではカッコ可愛いパフォーマンスを、美女コンではキモかわいい人たちがおもしろいパフォーマンスで会場を盛り上げてくれました。

そして球技大会。この日は快晴で、絶好のスポーツ日和でした。障害物競走ではジバニャンもいたし、胴上げやらなんやらで盛り上がって楽しかったですね。

そして閉会式。やりました。恒例のチックサックコール。祭りの最後はやはり叫んで終わるべきだろうと。それまでで一番みんなの叫び声が大きく聞こえたのがうれしかったです。たぶん3割くらいの人が叫んでくれたと思います。嬉しかったです。

こんな感じで終わった高専祭。今年が一番楽しかったと言ってくれる人がたくさんいて、心から実行委員長になってよかったと思いました。高専祭カップルも多く、末永く幸せが続くといいなと思います♡

今年の高専祭が成功したのは、実行委員や学生会だけでなく学生全員がバザーや企画など、様々な面で協力してくれたからだと思います。本当にありがとうございました。学生委員をはじめとする先生方も様々なかたちで協力していただき、本当にありがとうございました。

来年は南種クンが実行委員長なので、南種クンの高専祭を作ってくれると楽しみにしています。

高専祭最高！

教員の研鑽と教育改革・改善

八代キャンパス教務主事　渕田　邦彦

通算四回目となる平成26年度教員研修会が9月1日、八代キャンパスで開催されました。「研究活動」と「英語力向上」に関する2件の講演と、4つのテーマの分科会に分かれてのグループ作業・討議などが主な内容でした。4つの分科会では、「モデルコアカリキュラム対応に向けて：ルーブリックによる評価基準設定とシラバス書式」、「研究活性化」、「専門教科における英語力向上」、「共通教育科カリキュラムの改訂準備」の4テーマについて問題点や改善の方法など議論しました。

この研修会のように教員は教育の全般に亘って研鑽を行っています。このほかにも教員の研鑽の機会は学校内外で多数のものがあり、本校だけでなく全国高専で取組まれています。その背景には、社会情勢が急速に変化する中で、高専を取り巻く状況が年々厳しさを増しており、高専に対する要望や期待が年々高くなってきていることがあります。このような状況を背景に、国立高専機構では今年度、総合企画調整、モデルコアカリキュラム推進、ICT活用教育推進、FD等企画、情報統合システム企画、国際化推進の6部門で以下のプロジェクトを始めています。

1今後の産業構造を踏まえた連携高専・専攻科の課題整理、2入試制度改革に関する調査事業、3シラバスシステムを活用した到達度管理と実践、4到達度試験に関する課題整理と実践評価、5分野別工学実験・実習能力及び実質化に関する評価指標の開発、6分野横断的能力に関する評価指標の開発と実践、以上6項目。

冒頭に示した本校の教員研修会で取り扱ったテーマと、機構が進めようとしている教育改革の取組とが重なっていることが分かると思います。

一方、本校では一昨年「教育改善プロジェクト」を立ち上げ、八代キャンパスでは、各種統計資料による教育の現状分析に始まり、問題点の抽出、課題の設定を経て、アクションプラン（具体的改善策）を検討し、今年9月に八代キャンパスにおける教育改善に関する提言書」をまとめ、アクションプランを具体化して、いよいよ教育改善に向けて実践を始めようとしているところです。その方針は、「教える」から「学ぶ」への転換であり、A自学自習の定着と促進、B学習・教育目標達成に向けた効果的な教育手法および評価法の導入、C育成すべき人材像と対応したカリキュラム整備および学内検討組織の設置の3項目に関するアクションプランを実践するものです。

以上のように、向上・発展のためには絶えず改善の努力が必要です。学生のみなさんも実力向上に向けて常に改善を心がけてください。

「高専大会・電波祭を終えて」
―課外活動で得られるもの―

熊本キャンパス学生主事　大石　信弘

高度化再編による新学科が完成した今年度、学生数が減る中で学生達の活躍はどうだったのだろう。例として、高専大会と電波祭を振り返ってみよう。

まずは高専大会。九州高専大会を勝ち抜いて栄えある全国大会出場を果たしたのは、剣道部、弓道部、柔道部、テニス部、水泳部であった。そのうちでも全国大会において、弓道女子個人が優勝、女子団体が3位、剣道男子団体が3位、男子個人が3位、柔道男子個人が3位と特に武道系が活躍した年であった。

一方、電波祭は好天に恵まれ、入場者数は過去最多の約2800人を記録した。今年の特徴は実行委員長が初の女性であった点と、電波祭の裏方である実行委員に、全学生の1／3にあたる200名が自主的に参加した点が特筆できる。

このように、高専大会や電波祭で学生の自主的な取り組みが成果を上げていることは誇らしい限りである。

では、結果が出せなかったら課外活動は意味がないのだろうか？いやいや、却って結果が残せなかった時の方が、学生にとっては、これからの人生において何が大切なのかを考えるのにとてもプラスになっていると私は考えている。敗戦や失敗という動かせない事実が学生を原因究明にあたらせ、次のステップへと成長を促す。学生時代に失敗ができることこそが、学生の特権であり、課外活動の目的なのだ。

つまり、「高専で課外活動を頑張っても所詮マイノリティー。高校や大学で同じことをやるのとはレベルが違う。」とか、「高専のクラブからプロになる者はいない。」とか、「環境が整っていない。」とか、「いい指導者がいない。」などと嘆いてはいけない。人生において大事なものは、「理想」と「情熱」と「考える力」だ。君たちにこの3つが備わっていれば、世界のどこへ行っても、分野が何であろうとも、大いに活躍できることを保証する。そして、この3つを養うには、課外活動が大いに役に立つのだ。学生諸君よ、積極的に大いに敗戦・失敗してほしい。

寮生役員とともに

八代キャンパス寮務主事　小林　幸人

八代キャンパス学生寮は、後期から男子寮長原田導護君(建築社会デザイン工学科)、女子寮長米田　奈都紀さん(生物化学システム工学科)を中心に新しい役員体制をスタートさせました。これまでの成果を引き継ぎながら、新役員は新たな課題を設定し、寮の運営に取り組んでいこうとしています。まず取り組もうとしている課題は、防災体制の見直しと自学自習の定着です。

八代キャンパス学生寮は約３００人が生活しています。災害時には、寮務委員会や宿直者が対応しますが、寮生の安全確保のためには、何よりも寮生自身が防災意識を持ち、迅速に行動することが求められます。

役員は、現状を点検したうえで、より効果的な体制を構築するという課題に取り組んでいます。特に、平時を含む確実な点呼の実施、効果的な防災訓練の計画・実施に着手しています。

安全・快適な寮生活の維持・改善と併せて重要となるのが、寮生活を通じて寮生が成長し、自分の力を伸ばしていくことです。教育寮と位置付けられる学寮では、学力の向上も重要な課題となります。マテカと名付けている集団学習を見直し、実施回数の増加と併せ、役員が立ち会うことで、学習習慣の確立を図ろうとしています。

これらの取り組みは、９月に実施した役員研修におけるディスカッションを通じて計画されました。「現状把握」→「問題抽出・定義」→「課題設定」→「行動案策定」→「効果検証」→「改善」というサイクルを意識しながら、「より良い寮を作る」という共通の目標に向けて、それぞれがなすべきこと、出来ることを考え、実行しています。

後期に入り、高専祭、デザコンなど、役員は非常に忙しい毎日を過ごしています。12月には、４年に１度開催される寮祭も予定されています。役員自身が、こうした活動を通じて、マネジメントの力を伸ばしていくことを期待しています。

私たち教職員も、役員の協力を得ながら安全、快適、そして成長できる寮を実現するとともに、彼らの成長をサポートしていきたいと思っております。保護者の皆様におかれましても、今後ともご支援、ご協力お願いいたします。

専攻科の学外活動

電子情報システム工学専攻長　三好　正純

専攻科生の学外活動は主に研究活動です。日頃の研究成果を国内外の学会や研究会で発表したり、他の大学・企業との共同研究で技術交流をしたりなど広く活動の場としています。ここでは、研究活動のほか教育課程の活動も含めて紹介します。

１年生の主な活動は、夏季休業中に実施されるインターンシップです。インターンシップは教育課程にあって、企業等での実務体験を通して学校では得にくい実社会における生産技術や社会性などを学ぶことができます。専攻科のインターンシップでは、期間を比較的長い４週間を基本としているため、実習先でもある程度まとまった仕事を任せてもらっているようです。インターンシップの成果は12月の報告会で発表します。一般の人も参加できる学外の会場で口頭発表とポスター発表を行います。そのほか、創造力の育成として熊本県工業連合会との共同教育のアイデアコンテスト「閃きイノベーション」などにも参加します。

２年生の主な活動は、研究活動です。国内の学会や研究会・フォーラムのほか、海外で開催される国際会議にも発表しています。なお、学会発表では旅費が学生の負担となります。開催地が近県の場合はよいのですが、国内遠方や海外となるとかなりの負担です。そこで、本キャンパスでは奨学後援会から旅費の補助をいただいています。昨年度は国内・海外を合わせて延べ33名の学生が補助を受けました。学会発表を奨励している専攻科にとってはとてもありがたく、感謝しています。また、本キャンパスの専攻科では学生表彰として「研究技術奨励賞」を設けており、専攻科在学中の研究活動等を修了式で表彰します。表彰の対象者は、研究活動では学会論文誌の論文掲載や学会発表等を２件以上した者で、昨年度は15名が受賞しました。

専攻科生はインターンシップや研究活動等を通して知見を広め、技術やコミュニケーション力の向上に努めています。今後ますます活発になることを願っています。

ICT活用学習支援センターの活動

ICT活用学習支援センター長　米沢　徹也

ICT活用学習支援センターのこれまでの活動として、ネットワーク環境の整備、各種サーバの設置と管理、教育用システムの更新、無線LAN-APの増設、ウェブクラスの導入などを行い、教育・研究環境を整えてきました。ICT活用学習支援センターでは環境整備以外にもセミナーなどを開催しており、以下に主なものを簡単に紹介します。

●中学校サマーセミナー

8月24日（日）に中学生を対象として八代キャンパスの第2演習室で開催しました。菊池、合志、熊本市内の中学校からの参加者も見受けられ、参加者数は昨年より12名多い39名でした。午前中にスクイークというプログラミング言語を勉強し、午後は各自ゲーム作りに取り組みました。

●小学校5、6年生を対象としたコンピュータプログラム体験

9月7日（日）に小学校5、6年生を対象として八代キャンパスの第2演習室で開催しました。参加者は八代市内から3名、熊本市内から5名の計8名でした。アンケートの結果から、全員パソコンを使った経験があり、ワープロ、表計算、プログラミングの経験があると答えた児童が1名いました。マウスの操作に慣れている児童が多く、全員が楽しかったとの回答でした。

●シニア向けパソコンセミナー

9月8日（月）～10日（水）にシニアネット八代支部会員の皆様を対象としてEXCEL入門セミナーを八代キャンパスの第2演習室で開催しました。最初の2日間は11名、3日目は9名の参加者でした。参加者の平均年齢は66・4歳、最高齢者は77歳の方でした。EXCELにより家計簿、住所録、請求書を作成する内容で、非常に熱心に取り組まれ、活発に質問されていました。参加者9名のアンケートの結果、やや難しかったと回答された方が7名、難しかったと回答された方が2名で、やはり関数が難しかったと回答されている方が多い結果となりました。それでも受講者全員が内容の50％以上の理解はできたとの回答でした。

平成26年度アクティブラーニング研修会

“アクティブラーニング～主体的学び～”について考える

PBL・総合教育副センター長　上土井　幸喜

これまで本校では、学生の主体的学びを促す様々な取り組みについて検討を行ってきた。今年は、質的な学びの考え方の一つである「アクティブラーニング」に焦点を当てて8月4日に研修会を開催した。まず、平成23～24年度に実施した「主体的学びアンケート調査」結果より、「学生が評価する授業」「教員の意見」を併せ改善点をまとめ、主体的学びを促す取り組みのポイントを本校PBL事業部の大河内先生に報告して頂いた。主なポイントとしては、①学生の成長に合わせた基礎レベルの配慮と設定が必要である、②何に役立つのか、何に使えるのか、学ぶ意欲を持たせるためにグループワーク、コンテストなどを経験させ必要性を認識させるように工夫する必要がある、等々。

次に本校の磯田先生に「アウトカムズを重視した高等教育ワークショップ紹介」について講演して頂いた。アジアであまりアクティブラーニングの手法の一つPBLが普及していない原因の一つが「先生を敬い素直に聞く」という民族性にあるとの指摘もあった。

次に金沢工大の下川先生に「金沢工大におけるアクティブラーニング」について様々な取り組みの事例を報告して頂いた。アクティブラーニングの活性化については、特にこれと言った正解はなく、金沢工大でも個々の教員が試行錯誤で実施しているということである。建築科目の一例として、問題提起→アイデア創出→設計→具体化計画→検証実験→再設計→プレゼン→レポート、という流れが報告されたが、基本的には他の分野でも同じ流れが適用できると思われる。

アクティブラーニングの手法を使った授業は時間もかかるが、学生アンケートの「学生が評価する授業」とも関係して、主体的学びを促すために必要なことだと改めて認識を深めることとなった。今後、このアクティブラーニングを取り入れた授業について研修会を更に重ね、現場で効果を上げる様な取り組みを加速させる予定である。

三機関連携AT部門（Japan-ATフォーラム）

地域イノベーションセンター長　清田　公保

文部科学省・国立大学改革教科推進事業として、平成25年度から本格的にスタートした「三機関（長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構）が連携・協働した教育改革」のAT（アシスティブテクノロジー）部門の一環として、平成26年8月23日～24日、仙台高専・広瀬キャンパスにおいて、第一回Japan-ATフォーラムが開催されました。福祉医療支援に関する研究発表や医療・福祉機関の関係者および支援機器等を開発している企業などが全国から集まり、デモ展示やパネルディスカッションなど多岐に亘るイベントが実施されました。

本フォーラムのもうひとつの目的に、次世代を担う福祉支援開発技術者の育成に関する取組みがあります。

今回は、初めての試みとして、全国から集まった高専の学生を対象として、四つのグループを作り、「10年後の未来を展望した支援機器を開発する」というテーマで、ワークショップを開催しました。

最初は、初対面同士で少し緊張気味だった学生も、飴を使った自己紹介などのアイスブレイクが終わった後には、仲良く打ち解けていました。

グループごとに、リーダーや書記などの分担を決めた後、ファシリテーターのアドバイスを参考に、ブレインストーミングでは、面白い意見や独創的なアイデアが飛びかい、時間いっぱいまで、たくさんのキーワードが生まれていました。

途中、企業の方々の話も参考にしながら、学生達は個々の意見を整理し、自分達の意見をまとめ、午後に実施される全体発表会に向け着々と課題をこなしていました。昼食の休憩中も、時間ギリギリまで発表用資料を作成する学生の姿が印象的でした。

福祉および医療への支援技術研究の促進とATにおける次世代の新技術のイノベーションを起こす技術者育成を目指すこのフォーラムは、高専間交流の柱として、次年度は長野高専で開催の予定です。

英語力強化の取り組み

専攻科　下塩　義文

英語学習について、機会あるごとにお願いしていますがなかなか継続的な取り組みが出来ていないのが現状です。英語が使えるようになるには二～三千時間が必要とされていますが、英語の授業時間は高専までで千時間以下です。不足する時間は自分でやるしかありません。そこで、低学年から習慣づけることで継続した英語学習ができるようにということで、以下の取り組みを始めました。まず、1、2年生の英検CATの受講です。これは、英検の資格取得を目的としたe-ラーニングシステムです。自宅からでも携帯からでも受講できるので、積極的に利用して3年生までに英検2級を目指して欲しいと思います。

次に、日常的に英語に触れる機会を増やそうということで、多文化交流室（通称：MER：Multicultural Exchange Room）（写真1）を開設しました。コンセプトは「校内で留学体験を」です。現在は、県内・本校の留学生に来てもらい、1、2年生と英語での会話をしてもらっています。また、本校の留学経験者との英語での交流やESSクラブの活動などが実施されています。今後、海外研修・海外インターンシップ・留学等の報告会、留学相談、留学生による国の紹介などを実施して行く予定です。Skypeカメラも設置されているので、ぜひ研修旅行で知り合った海外の学生とも交流してください。

また、希望者に対して次の二つの取り組みを開始しました。放課後英会話教室は、外部講師による週一回1時間または90分の講座を実施しています。これは有料ですが現在50名近い学生が受講しています。語学留学はフィリピンのセブ島にある語学学校に夏休み1か月間滞在し、1日に7、8時間の講義を受けるものです。マンツーマンの講義が半分あり、力をつけることができます。今年は2、3年生の11名が参加しました。なお、費用は交通費、滞在費、授業料込みで30万円ほどとなっています。

来年も実施予定なのでぜひ参加してください。

写真１：多文化交流室

セブ島での英語学習

建築学会九州支部都市計画委員会主催の夏季セミナーで最優秀賞を受賞しました。(8/31-9/1)

8月31日～9月1日にかけて北九州市宗像市グルーバルアリーナで、恒例の建築学会九州支部都市計画委員会主催の夏季セミナーが開催され、本校の建築社会デザイン工学科の5年生6人・専攻科生1名のチームが最優秀賞を獲得しました。参加は九大、熊大、崇城大、西工大、久留米工大、大分大、福大、九産大の都市計画系の研究室の学部4年生と大学院生と教員約90名です。高専の参加は本校1校でした。テーマは唐津街道筋に残る歴史的な町並み赤間宿、原宿の再興です。

1日目は宗像市役所都市計画課・郷土文化交流課による当該市の強みや課題の説明の後に、地元ボランティアガイドの方々の案内により現地を廻りました。夕食は学生・教員交流のバーベキューの後、学生たちは10チームに分かれて提案づくりの作業です。

本校チームの提案は「ドマリズム」(ドマ＋チラリズム)というテーマで、各町家の土間を可能な範囲でオープンにして、そこを歩くことで、町並みの外観に加えて内部もチラリと垣間見ることができ、より深く赤間宿の魅力に触れることができるという提案です。ネーミングの面白さと明快さ、すぐにでも実現できそう、ということが評価されました。

12月7日(土)、熊本キャンパスにおいて冬季オープンキャンパスを開催しました。寒い時期の開催ではありましたが、中学生80名、保護者65名の方にご来場頂きました。みなさまのご来場ありがとうございました。

「科学の祭典」特別番組で制御情報システム工学科3年生の取り組みが紹介されました。(9/6)

9月6日(土)、KKTの科学の祭典特別番組にて、東京エレクトロン九州と制御情報システム工学科3年生が協力して取り組んだ「夢をかなえる科学の力」が放送されました。

本取り組みは、6月末、東京エレクトロン九州の方々の特別授業「受注から納品まで」から始まりました。その中でサプライズゲストとして登場したもっこすファイターの2人から「科学の祭典当日に子供たちが喜んでくれるモノを作ってほしい!」という依頼を受け、約2ヶ月間で納品までを行うことになりました。

学生たちはが考え出したアイデアは、子供たちにも馴染みのあるアニメ「名探偵コナン」に登場するアイテム「蝶ネクタイ型変声機」と「ターボエンジン付きスケートボード」を実現するというものでした。学生たちは試験や部活動の合間を縫って設計・制作をおこないました。8月23日と24日、科学の祭典当日は３万人を超える来場者の中、発表と体験コーナーを実施し、参加した子供たちに喜んでもらうことができました。

東京エレクトロン九州の方々に、アドバイスをいただきながら制作を行い、現場で働かれている技術者と触れ合う貴重な経験ができました。この経験を通して得たものや感じたことを今後の学校生活に生かしてくれることを期待しています。また、体験してくれた子供たちにも、理科や工学に興味を持ってもらえるとうれしく思います。

本校学生が大牟田市民テニス大会(男子シングルAクラス)で準優勝しました。(9/23)

平成26年9月23日大牟田市緑地運動公園テニスコートにて行われた「大牟田市民テニス大会」において、熊本キャンパス1年生の松本祥暉君が男子シングルAクラスで準優勝しました。

テニスコーチや全日本ランキング保持者が参加するレベルの高い大会においての準優勝でした。決勝戦では惜しくも敗れましたが、今後の活躍が期待されます。

News & Topics 募集しています!

熊本高専公式HPではNews & Topicsの記事を募集しています。
Newsでは、部活動の対外活動や学内の学生行事、学生・教員の取り組みなどを紹介します。また特に郊外での活躍はTopicsとして公式HPのトップページにも掲載されます。
公式HPで紹介したい内容がありましたら、ぜひ情報をお寄せください。学生・保護者の方は、部活動の内容は顧問教員、各クラスの行事・個人での取り組みなどは担任を通してお寄せください。
News「在学生・保護者の方へ」内でもご覧いただけます。

News&Topics

八代海で実施した「地引網体験」にボランティア協力しました。(7/21)

7月21日、八代市の大島において、熊本県内の園児や小学生とその保護者を対象に地引網が実施されました。これは、やつしろ里海ネット（代表：建築社会デザイン工学科・上久保祐志 准教授）と不知火地区漁業士会、八代漁協が共催で実施したもので、「地曳網を体験し、八代海の"海の幸"を食し、地元の海の良さと価値を知ろう!!」といったテーマで毎年実施されているものです。

イベントでは、上久保准教授による「八代海の漂流ゴミの現状」と題した学習会や、漁業士から「八代海の危険生物」についての話をしてもらった後、海辺にて地引網を体験してもらいました。今年は、ボラが大量に網に入り、参加者からは驚きの声があがりました。海鮮バーベキューでは、エビ、ホタテ、ウナギ、イカ、タイなどのほか、とれたばかりのボラの寿司も振る舞われました。この「地引網体験」には、運営スタッフとして、教職員6名、学生21名が参加し、会場設営、駐車場の誘導や海鮮バーベキューの調理、撤収作業等を終始サポートいたしました。また、留学生3名も参加して、異文化交流を楽しんでもらいました。参加した学生からは、「イベントを運営する側としての参加は大変だったが、とても楽しかった。参加した子ども達が楽しんでいる姿をみて、自分も嬉しかった。」との感想が聞かれました。

「水の科学館」が募集する「水に関する短歌」部門に本校4年吉田君の作品が入選しました。(7/29)

「水の科学館」（熊本市八景水谷）が毎年募集している「水に関する短歌」部門で、人間情報システム工学科4年の吉田有希君の短歌

「ふるさとの　苗を育む　水田は　とても大きな　空の姿見」

が銅賞に選ばれました。

選者からは、「水田を大きな姿見ととらえた感性が女性と見まがうほどでした。男子学生と聞いて感性の鋭さに驚きました。」という講評をいただきました。本キャンパスからはこれで6年連続の入賞となります。

熊本日日新聞「あれんじ」で工作教室の様子が掲載されました。(8/16)

熊本日日新聞の生活情報誌「あれんじ」主催のミニイベント「子育てパーク」で、建築社会デザイン工学科の森山准教授が工作教室「動くガメを作ろう!」の講師を務めました。

このイベントは7月19日（土）に、八代市の宮地公民館で開催され、15組42人の親子連れが集まりました。内容はヨーグルト容器などを使い、八代妙見祭の出し物「亀蛇（ガメ）」を模したゴムで動くおもちゃを作るというものでした。

このイベントの様子や工作の作り方が「あれんじ」8月16日（土）号の「子育てパーク」コーナーに掲載されました。

北九州高専の女子学生との女子交流会を開催しました。(8/28)

8月28日、北九州高専と本校熊本キャンパスの女子学生による「北九州―熊本 高専女子交流会」を開催しました。女子学生のみによる他高専との交流会は初めてで、北九州高専からはシンガポールから短期留学中の女子学生2名を含む7名、熊本キャンパスからは1年生から5年生まで8名の女子学生が参加しました。

互いの高専を出発して大分九重町の八丁原地熱発電所で合流、発電所見学の後、九大山の家で昼食をとりながら自己紹介などを行いました。昼食後はお互いの高専を紹介するプレゼンテーションやフリーディスカッションを行い、室内レクレーションなどで交流を深めました。

参加した学生は、「互いの学校の特徴や違いを知ることができておもしろかった」「普段他校と関わりがなく貴重な体験だった」「また参加したい」と交流を楽しんでいました。

行事予定 Event Calendar

1月▶3月

熊本キャンパス

1 January 月

5(月)	授業開始
17(土)	本科推薦選抜(入学試験)
21(水)～27(火)	定期試験(専攻科)
27(火)～2/2(月)	定期試験(5年)

2 February 月

5(木)	特別研究発表会
6(金)～13(金)	定期試験(4年以下)
15(日)	本科学力選抜(入学試験)
16(月)・17(火)	休講(本科)
20(金)	卒業研究発表会
26(木)・27(金)	休講(本科)

3 March 月

2(月)・3(火)	クラスマッチ
4(水)	終業式
5(木)	学年末休業(3月31日まで)
15(日)	卒業式・修了式

八代キャンパス

1 January 月

7(水)	授業開始
17(土)	本科推薦選抜(入学試験)
26(水)～30(金)	定期試験(専攻科)
27(火)～2/2(月)	定期試験(5年)

2 February 月

3(火)～9(月)	定期試験(4年以下)
9(月)	特別研究発表会
15(日)	本科学力選抜(入学試験)
16(月)・17(火)	休講(本科)
20(金)	卒業研究発表会(BC)
25(水)	卒業研究発表会(MI)
26(木)	卒業研究発表会(AC)

3 March 月

3(火)	終業式
4(水)	学年末休業(3月31日まで)
15(日)	卒業式・修了式

編集後記

今年度も学生の諸君は高専大会でかなりの活躍を見せてくれたようです。全部を紹介できないことが残念です。他にも、ロボコンも地区大会で3連覇する他、デザコンの全国大会が八代で開催され、空間部門では最優秀を熊本高専が受賞しました。スポーツ競技以外でも目白押しです。頑張れ！熊本高専。

革新する技術、創造する未来 ～夢へ翔る熊本高専～
熊本高等専門学校
Kumamoto National College of Technology
独立行政法人 国立高等専門学校機構 熊本高等専門学校
熊本キャンパス
〒861-1102 熊本県合志市須屋 2659-2 TEL 096-242-2121
八代キャンパス
〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627 TEL 0965-53-1211
http://www.kumamoto-nct.ac.jp/